

【主題名】 かけがいのない生命 内容項目 「D- (19) 生命の尊さ」

【教材名】 コースチャぼうやを救え (東京書籍 新しい道徳5)

<あらすじ> 1990年、旧ソビエト連邦で大やけどを負った3歳のコースチャ坊やを治療してほしいとサハリン州知事から北海道知事に連絡がきた。坊やの命はあと数十時間と言われ、国境を越えて治療が始まった。日本内外の励ましと必死の治療で坊やの命は救われた。

【ねらい】

内容項目の理解

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

生命が大事だということは分かっているが、家族や友達に限られていることが多く、異国の少年の命を大切にしようとする機会が少ない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自他の生命を尊重し、かけがえのない命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 ICTを活用し、教材の内容に興味・関心を持たせる。</p> <p>○ みなさん、サハリンという場所を知っていますか。</p> <p>○ 今までに、やけどや大けがをしたことがありますか。その時、家族はどうしましたか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>人の命を守ることの大切さについて考えよう。</p>	<p>導入の工夫</p> <p>教材の活用</p>
展開	<p>3 教材の内容を把握し、状況を捉える。</p> <p>○ コースチャぼうやの大やけどを知った人達は、どのようなことをしましたか。</p> <p>○ コースチャぼうやの命が救われたのはなぜでしょう。</p> <p>4 自他の生命を尊重するために必要なことは何か考える。</p> <p>◎ みんなを動かしたものは、何でしょう。</p>	<p>多面的・多角的</p>
終末	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 現在のコースチャぼうやの資料があります。資料を聞いてどのように思いましたか。</p> <p>○ 人の命を大切にするために大切な思いは何ですか。</p>	<p>終末の工夫</p> <p>教材の活用</p>

【板書計画】

第〇回道徳 人の命を守ることの大切さについて考えよう。

サハリンの場所を示す地図

- ・サハリン州知事から北海道知事に連絡
- ・外務省や北海道庁がパスポート、ビザなし入国の手配
- ・札幌医科大学の医師が治療
- ・励ましの手紙や見舞金が届く
- ・両親が必死に看病する。

救われたのはなぜ

- ・なんとかして、助けたいと思った人がたくさんいた。
- ・応援の手紙がコースチャ坊やを勇気付けた。
- ・家族だけでなく、周りの人達の助けたいという思いが強かったから。

みんなを動かしたもの

- ・なんとしても助けようという、家族だけでなく、家族以外の人達の思い。
- ・国は違っても、救おうとする行動。
- ・一人一人の優しさ。

↓

人の命を大切にするために

【評価】

自他の生命を守ることの大切さについて考え話し合うことを通して、生命を救い守り抜こうとする人間の尊さに気づき、自他の生命を大切にしようと考えようとしていたか。